

—写真訪問②—

横津岳気象レーダー観測所 (函館海洋気象台)

レーダー観測所

函館海洋気象台では、平成3年～4年にかけて庁舎の新築と時を同じくして函館気象レーダー観測所の移転新築と機器の更新がなされ、4年10月から本運用が開始された。

これまでの観測所は、百万ドルの夜景とうたわれる函館山のほぼ頂上(314m)に昭和36年に建てられ、37年のスケッチ観測開始以来30年間、職員の交替勤務常駐によってその使命を果たしてきたが、肉眼による風光明媚とは裏腹に、胆振・後志地方や東北岩手県北部がシャドウエリアになることから、かなり以前から横津岳への移転計画があつて、この度その念願が叶ったといえる。

新築された横津岳気象レーダー観測所は、函館市内(海洋気象台)から北北東に約14Kmのところ、1176mの横津岳頂上から南東側に920m、標高1111.7mの地点に建てられた(写真)。この観測所は、気象庁レーダー観測網20ヶ所のサイトの中で、富士山につぐ2番目の高さであり、冬期間は想像以上の厳しさがある。

新築された観測所は、鉄筋コンクリート3階建てでその上に鉄骨の階段とレドーム室があり、1階は電源室、2階は機械室、3階は待機室となっており、緊急時には仮宿泊出来る最低限の設備が整っている。

レーダー機器

横津岳の新レーダーは、海洋気象台からの遠隔操作によって制御されている。また、今までの機器はデジタル化装置が付加された形であったが、新レーダーはデジタル化装置と一体化した構成となっている。

機器制御を行う「遠隔制御装置」はサイトに1セット、気象台側のレーダー観測室に1セット、観測・予報現業室に1セット置かれ、どの装置からも同様な制御が可能である。更に、サイトの機器制御だけでなく、機器の状況監視や運用履歴など、また、観測所の防犯や火災報知など庁舎の管理に関する情報も入手できる。

レーダー装置の機能は、旧函館山のものともあまり差はないが、観測所が高所に移転したことにより観測エリアが格段に広く(別図1)なったことや、ソフトの改良により雨量強度の16段階表示や鳥瞰図(別図2)の表示も出来る。所在地及び出力等機器の概略は次のとおりである。

横津岳気象レーダー観測所概要

観測所所在地	亀田郡七飯町字大川790 (北緯 41° 55' 52" 東経 140° 47' 06")
空中線海拔高度	1142.1 m
送信周波数	5300 MHz

送信尖頭電力 250 KW

観測表示メッシュ 2.5×2.5 Km

レーダーによる観測結果は、従来と同様に札幌管区へL/A用と北海道レーダー合成図用のデータを送信し、仙台管区にも東北地区レーダー合成図用のデータを送信している。但し、仙台への送信は盛岡地方気象台経由に変わった。

以上で簡単な横津岳気象レーダーの紹介を終えるが、レーダー情報はリアルタイムな情報であり、また、これから重要視されるメソ量的予報への利用にも大きく貢献できるものとして期待している。

(函館海洋気象台 能島勝彦)



〔横津岳気象レーダー観測所〕

(函館海洋気象台)

横のパンザマストはVHF中継用でアンテナはまだ設置されていない。

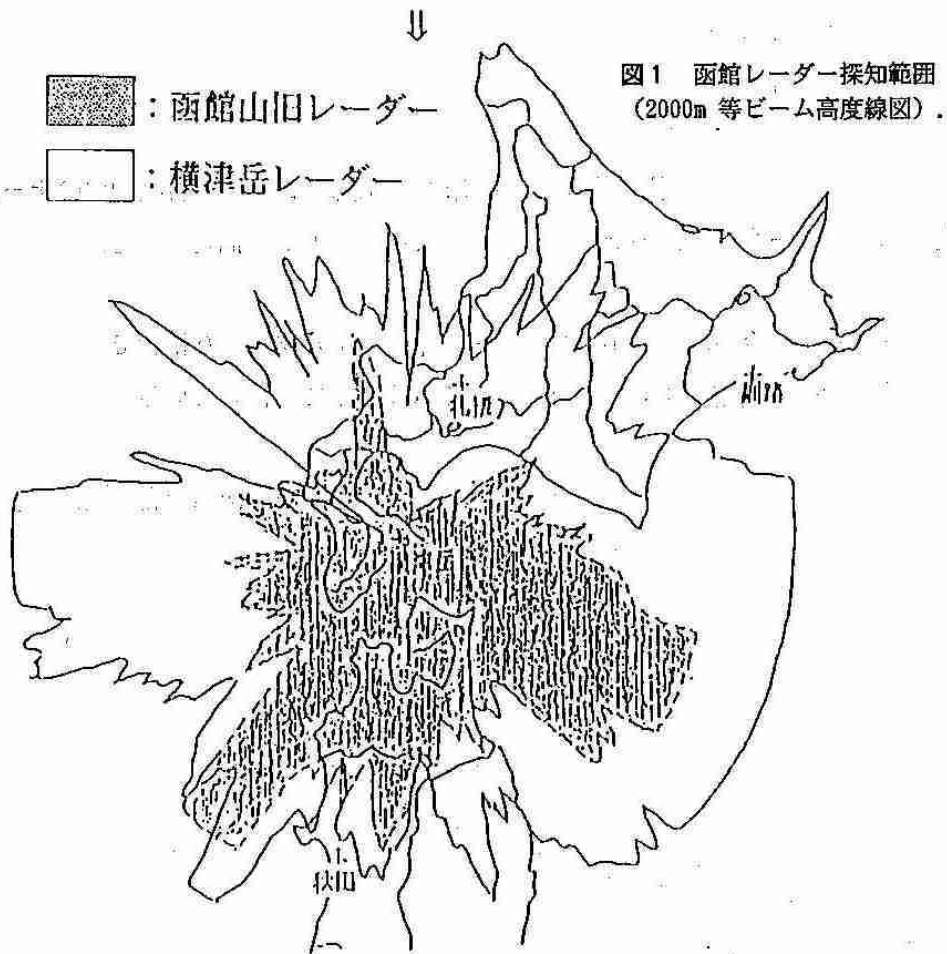


図2 [鳥瞰図] (カラー)
 雨量強度を16色カラー表示.
 エコー頂高度を棒グラフ表示.

